

第2回「学校支援地域本部事業運営協議会」議事の概要

1 日 時

平成20年11月19日（水）13:30～15:40

2 場 所

宮崎市立住吉南小学校

3 出席者

委員15名

4 議 事

(1) 学校説明に対する質疑・応答

(委員) 本事業には、いつから取り組んでいるのか。

(校長) 11月1日から取り組んでいる。事前にワーキング会議を立ち上げており、方向付けができていたため、スムーズにスタートできた。

(委員) そのときからボランティアのリストはできていたのか。

(校長) まだできていない。今後、学校・地域にとって役に立つという視点で募集しようと考えている。

(委員) コーディネーターは、学校とタイアップして活動しているのか。

(校長) 学校の職員に3か月ぐらい先までに必要な人材を挙げてもらい、探してもらっている。

(委員) コーディネーターはどうやって応募したのか。

(校長) コーディネーターは地域全体に募集をかけた。複数の応募があり、面接をして選考した。

(委員) 地域協議会の関わり方はどうなっているのか。

(校長) 地域の中心的人物が地域協議会の委員になっており、負担軽減のため、別に組織を作って対応していただく形をとった。当市でも、地域によってやり方が異なっている。

(委員) A市では、地域づくりの部会の1つとして青少年育成部会を立ち上げたが、学校現場とじっくりいっていない。

(2) 協議

(会長) 今後の事業の円滑な運営に向け、①当地区での実践を広げていくためにはどうすればよいか、何を学び取るか、課題は何かということ、②事業そのものについての助言等、の2本の柱で協議したい。

(委員) 取組自体はとても素晴らしい。グリーンツーリズムについては、近くにあるにもかかわらず、A市の子どもは利用していないので、もっと広がってほしい。

(委員) 交流事業のような取組は教育委員会と行政の連携がうまくいっておらずバラバラに行われている。

本事業については、まずスタートすることが大事ではないか。コーディネーターが情報を求めるためのシンクタンクのようなものを県レベルでつくり、コーディネーターと連携すればよいのではないか。協力者を探すヒ

ントを与える場所として、行政にコーディネーターの相談窓口をつくるとよい。

学校は、何を必要としているかをコーディネーターに伝えることが大事ではないか。

(委員) うまく機能する組織があるとよい。

(会長) 学校と行政がバラバラに存在しているという意見があったが、①体制づくりをどう進めていくか、②情報の集中管理、情報のよりどころをどこにするかという2点について協議を進めたい。

(委員) 本事業に取り組んでいる地区は、B市にはいくつあるのか。

(委員) 1つである。他の地区は、別の形で学校支援に取り組む計画である。

(委員代理) C地区は学校のカリキュラムに対応できておらず、まだ学校支援は行われていない。

(委員) 当校の実践をどう県下に浸透させるかが問題である。資料提供の場をつくとよいのではないか。

(会長) それぞれの取組の情報を共有化し、実践を点から面へ広げて行くための手立てはどうあればよいか、意見を伺いたい。

(委員) 情報の一本化が必要ではないか。各活動組織がバラバラに動いているのが現状である。

(委員) 支援本部委員には広報・啓発活動に積極的な方を選びたいという説明があったが、具体的にはどんな人を考えているのか。

(委員) 保護者の中で考えている。

(委員) コーディネーターを育てる形を作るとよいのではないか。情報のネットワークを構築することも考えられるのではないか。

(委員) 当地区に配置されている3人のコーディネーターだけでは負担が大きいため、公民館や地区社会教育協議会、地域センター等の職員の活用も考えたい。また、「つなぎ」が大切であり、その役に徹するのが校長の役割である。校長がコーディネーターを外部に連れて行き、顔を覚えてもらうことが大切ではないか。

(会長) 当地区の取組を外向けに情報を発信する計画はあるのか。

(委員) 研究公開は実施せず、既存の会合等で紹介する予定である。

(委員) できるだけ簡単に、コンパクトにして情報を発信してもらおうとよい。

(委員) 本事業が学校の負担になると考えている学校への説明をどうやっていくかが大事ではないか。

(委員) 地域とつながるとうまくいくという気持ちを教員に持ってもらうことが大事だと思う。

(会長) 課題は、①推進体制づくり、②情報の集中管理、③すばらしい実践の情報発信、の3つであり、これらが推進のポイントになるのではないか。

(委員) いかにバックアップしていくかが大事である。ぜひ、当地区での実践を広げてほしい。また、学校が核となるということを学校自体が認識することが大事ではないか。